

## 市議会議員のあるべき姿と嘘

1年間市議会議員をさせていただきました。いろいろな方から言われます。市議会議員はこうじゃなきゃおかしい。こうじゃないと相手に失礼だ。こうじゃないと、次の選挙で落ちる…結論から言います。そういう固定観念は全部、嘘です。その固定観念により、政治家と市民の考えにギャップが生まれ、今の政治不信を招いています。誤解を恐れず言いますが、議員や議会に内部規範は存在しません。(※先例集はある。)だからこそ、0からの思考により、社会的に大きな変化を起こしていく事が肝要です。

一例をあげます。「みんなに良い顔をする」事は間違いです。岐路に立つような決断をしなければいけないくて、それをする時というのは、全員が幸せにはならないかも知れない。何かをやめたり、何かを大きく変えるという時には、痛みを伴う事もあると思います。痛みはみんな嫌だと思えます。でも、そういうのを誰かに憎まれてでも決断する必要があり、その決断を行う事が、議員の役目であり私の役目です。その上で、みんなに嫌われて、憎まれてボロ雑巾のように捨てられる…「議員は使い捨ての道具である」ここまでの認識がないと、市川市は良くなるように思います。固定観念に縛られた些末な事に時間を削られず、与えられた4年間をフルに活動に費やす。この点が最も大切な事です。私を使い捨てられた後になるかも知れませんが、同じ想いで取り組んでくれる方たちと時代は違えど「みんなが幸せを享受できる市川市」の一助になりたい。と考えています。そのきっかけが、週刊増田好秀や市民活動から生まれれば…と願っています。今回は皆さんへの提言というより、自分への戒めの色が濃いです。市議会や市議会議員の周りに存在する、慣習・恒例という言葉を履き違えて、気づかないうちに易きに流されているのではないか…試行錯誤の毎日です。今回、難しいテーマである事は重々承知しています。ただやはり、言いたい事はひとつです。みなさんで「今後もベストな状態の市川市」を思い描き、話し合ってみて下さい。個人個人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成24年7月31日

増田好秀